

『日本文化原論 永続思想 主体性学』

一編 人間学

はじめに

1) 主要な関心と創造力

1-1 時代環境と哲学文化

1-1-1 需給均衡と永続

需給均衡と永続性を求める変わりづらい欲求が出現する。人口減少と需給不均衡の拡大に対し「人口増加か、道具や機械・装置による生産性の向上か、他地域への移動」等という施策に大別される。

1-1-2 人間の不動性

成熟期から衰退期等という時代環境の認識に及ぶと人間や生態の根源性へ視線や思慮が出現し確たる適正基準の導出と稼働を求める発想が出現する。変動性の激しい現象の加速に対し確たる不変の基準を求め長らく良好な人間と生態の絶対性の基準を備え歪性の拡大に陥らぬ抜本的な観点からの適正基準の形成と稼働へ発想が現れる。人間の根源的な性質があまりに変容する事の無き哲学文化という領域観と関心が高まる。

1-2 自然と人間と社会と生態の傾向則

1-2-1 自然傾向則

地主の家に生まれると土地資源に依存し生計と生存を求める発想と習慣の傾向が出現する。石油資源の採掘が豊富な環境で生まれ育てばそれを優位性として自存と成長を遂げる習慣が進む。自然環境が人間性を生み社会性と及んで生態の性格が形成される。あまりに偏った資源への依存から人間の精神に特殊性を起こし生命観や人間観の違いが広がり不協和と負の因果が拡大する事へ対する長期的な生態の適正を遂げる発想と施策が出現する。

1-2-2 健康な人間性

奴隸的な社会関係を招く歪性の因果が広がり人間の健全な心身の同一認識を進め適正像と過不足の評価と方法に回る規則性が作られる。「人間平等と持続的な開発」という理念の集約へ至り実際に達する各種観点や方法が進む。

1-3 日本という特定性

1-3-1 天皇陛下・天皇制

日本という空間においては憲法により天皇陛下を象徴とする規定が盛り込まれる。空間を統治する人的・仕組み的な基準が存在する。空間の秩序を作る象徴的な存在を求め適正化の基準や目安を形成し正当化の根拠として代を跨ぎ存続させる社会秩序が稼働する。男系か女系が問われ男性と女性にある特色性の想定が成され、いずれの要素に主導性を持たせ良好な生態と永続を求めるかの答えを模索する観点が現れる。或いは、そもそも血縁関係と地位を継承する仕組みが進行する事に適正があるか。世襲政治家を作る正当性を強める作用が進む事に適正があるか。

1-3-2 人的属性や相関性と純粋な創造力、歴史性と純粋理論

血縁の存続という側面を重んじ象徴の継承を進め創造力の中味を問い適正を達する発想が弱まるようであると人間や社会の歪性を広げる。精神性の病んだ奴隸的な支配構造や階級的社会的性の進行や資源や物質に依存する主従関係と固定化への警戒が出現する。歪な寡占的な支配構造が強まり二極分化の社会構造が高まり長期的な永続軌道が減退する事への適正化の発想が出現する。

1-3-3 政治性と同一原理

ここでいう「政治家」という観念はいわゆる法規で規定される政治活動というよりも広く創造力を主導する性格を求める対象に適用される。経済人や教育者や宗教哲学文化芸術、マスコミ評論家等という対象も政治性が作られる。あらゆる表現や創造の牽引性に対し良き精神性と稼働を求める同一原理を模索し追求する態度が出現する。

1-3-4 共通基盤性・共通尺度・根源性

現代社会の分化性と複雑化した状況が進み、各種領域観が多産される事に対し、同一性や共通性の観点を求め現象の本質性や根源性を浮かび上がらせ、歪な部分性の広がらぬ規律や基準を引き出す感性が現れ普遍的不変性への探究が持続する。

1-4 普遍的不変性の問いと探求

1-4-1 生態概念：根源根幹産出性(部分と全体)及び習慣

生の導出は滅を招く生滅不可分性を感じ取れる根源的な感性や精神を動力源に浮かべながら、「精神性と身体性と観念性の相関と習慣」という人間の根幹的な観点を導出し適正が斯様にあるか。生態の根源且つ根幹へ視線を集め変わりづらい普遍的な基準の導出に及ぶ。「人間平等と成長意欲と永続性」の観点を加えた要素と要素性の相関体系に纏め人間性を根源に配し社会性や自然観と生態系の健全と永続を求める方程式へ及ぶ。

1-4-2 根源性

一定の変わらぬ人権概念を確立し生まれながらに内蔵する最低限的な要素の規定を整え無条件的な権利観念の導出と相互的なエネルギー循環と均衡による権利義務の適正を遂げる観点を起こし人間の健全性と永続性を作る事へ至る。

1-4-3 分化と統合の適正と健全な領域の存続

民主制や自由の拡大、個々人化の促進という分散性の流れと社会性や集団性の志向、協調性、専制性、象徴の形成や空間の安定という統合性の流れに大別し適正な制御を遂げる習慣が作られる。一面的な割合が高まり精神性の悪化と物質依存性が強まる人間と生態には長期的な永続軌道から外れた様子が進む。分散と統合を分ける基軸的な基準を引き出しあまりに極端な反応が強まらぬ基準と制御の規則性を整備し人間と生態の健全と永続を求める探究と創造原理が構成される。

1-4-4 精神性と身体性と観念性の相関

因果性の広狭や深淺を生む事について領域内部と外部という境界性を浮かべ一定の規律と統治の制御を果たす緊張と緩和の仕組みや周期を持って健全な領域の形成と存続の軌道が形成される。精神性と身体性及び観念性の有機的な相関と習慣の領域観が形成される。3つの要素と相関が、あまりに変容すると、根源性と根幹性の狂った性質を招き生態の不健全性と破壊の軌道に外れる。道具や装置への過度な依存による生存策を求める精神性が深まり物質依存の強まる人間の不健全性に対する適正な制御をもって、変らぬ良質を求める内省と外形を実現する。

1-5 基礎基盤的教科の確立

1-5-1 生態概念と運用

こうした人間の根源且つ根幹と全体性及び規則性といった観念を基礎土台性に備え、部分的な現象の性格を規定し全体と制御に及ぼせる創造原理が構成される。根源や全体の観点が萎んだ部分性に陥り負の性格を増した創造に及ぶ事への適正な管理と稼働の主体性原理が望まれる。

1-5-2 立憲主義

生態の萌芽期から長らく良き習慣を稼働させる長期スパンの計画と稼働において、生態の健全な性質と実際の自然律が産み出される。予めの静的・動的基準の導出と実施と改善を存続する思索や施策が投じられる。歴史の経過と稼働から各種の正負の体験を通し良質を求める根源性が存続し改善の発想や感性の出現と持続に渡り、言葉や概念の形成や思考の習慣と内容に表れ、身体的因果や感性的因果及び観念的因果を出現させる活動法則性の認識と実施を遂げる主体性像を起こし実際性を図る創造原理と纏まる。立憲主義等という理念に通じる。

1-5-3 生滅不可分と最良的生の導出

短変数と即効性の因果性と効用感を求める体質が強まり、偏狭的な観点と因果の認識が固まり、根源性や根幹性及び全体性なる観点が萎み、歪な部分性と負の性格を深める事のなき人間性と生態系を求める思想体系を産む。生滅不可分という感性によって抽象と準抽象と具象の観点と整合を果たす精神性が出現し最良的生を生む習慣性が宿る。とりわけ、大きな力を保有し活用するような立場によるほど確かな根源性と根幹性及び全体性の観点と中身の健全性が望まれる。万人同一性の尺度の共有と広がりをもって實際化の施策に回る。特殊性の強まる特定領域における基準尺度に対し、万人同一の基盤尺度の厚みと普及により、健全な個性と個性の相関と持続を実現する。

2) 普遍的不変性の探究と導出と稼働

2-1 思想の初動性

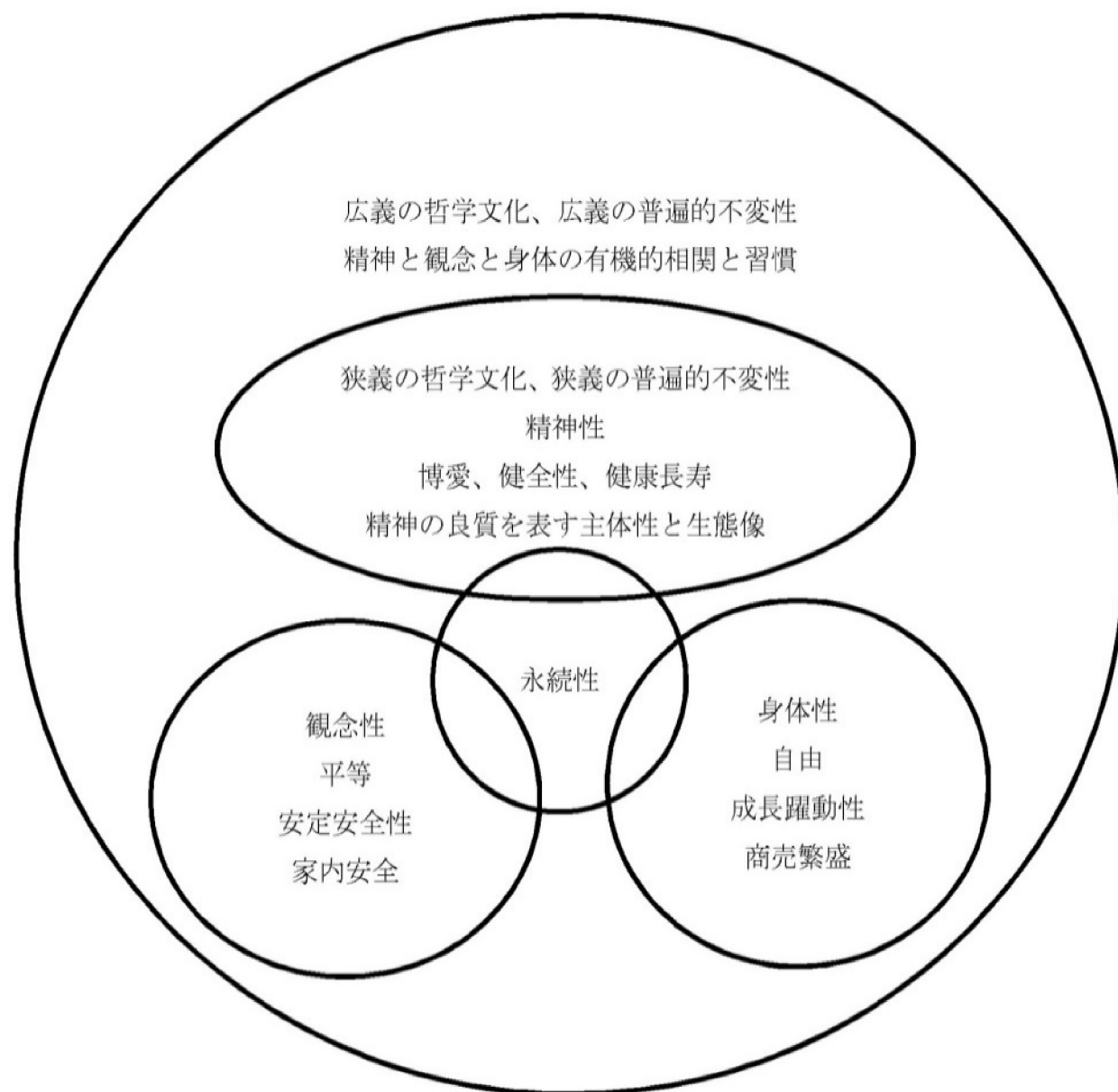
思想と言えば「保守と革新」等という政治思想が代表的なものであり人々が良く用いられる概念と認識される。保守は既成的な秩序を重んじ革新は新規的な秩序を求める。「既成と新規、維持と変化」に対し、どのような納得感や説得力を持って自他との良好な社会性や公益性を実現するかという観点と論理が引き出される。例えば、AさんはC市という地域に、最近引っ越してきた。既にゴミの出し方等という日常の習慣や慣習が稼働している。まずは既成のルールに従い人々が決定した基準と稼働を習いどのような意味や効果が存在するか。身をもって体験し有用性の認識と共に改善の発見を進め既成の秩序よりも良くなる方式の提案に至って納得と合意と更新に回る。いきなり何もせずに新規的な方式を身勝手に行えば住民から反発と対立が生じ混乱と争いの因果を出現させる。こうした観点が社会や政治という初動的且つ具象的な現象となり個々の体験と正負の蓄積と改善と稼働の周期を持って多種多様な用語や概念の形成と活用へ及ぶ。具象的な観点と誰にも伝わる現象を土台性に起こし準抽象や抽象の概念と対象範囲の広狭・深浅に相応する概念と現象の対称を図り極端な飛躍性に陥らぬ頭と体の整合と精神の健全性が形成される。根源的な原理の導出に及び各観点の整合する体系観や領域性を持って生態の健全と永続軌道が産まれる。「保守と革新」という抽象概念を唐突的に用いると解釈の幅が広がり意味不明性が高まり混乱と不協和を生じさせる。基礎基盤性の原理の萎んだ専門性を出現させプラス心象よりもマイナス性の因果を増した生産性への反省と適正化の法則が形成される。

2-2 万人的同一性

2-2-1 根源的集約概念

「家内安全と商売繁盛」や「平等や繁栄」といった万人性の欲求や祈願の同一性の認識を揃え誰もとと同じような性格を有する人間性や人間像を土台に整え自己のみならず他者の欲求との同一性を根源原理に起こし一方向の要望の強まる歪性の拡大に陥らぬ根源且つ根幹性を有する生態の芯が作られる。普遍的不変なる基準と同一基盤を持つ社会と人間の土台観を備え既成的な秩序の同一性の基に確かな基準の形成と更新を重ねる人間性が稼働する。過去の先人達のプラス的な創造の成果となり既成的秩序や基準が形成され後世に適正な基準を継承し更に良くなる発想と意欲を起こし代々と健全な基準と知恵の導出と改善の存続する

人間性と生態系の軌道が産出される。人間と生態の健全と永続を求める根源且つ根幹性の認識が作られる。「自由と平等と博愛」という理念の導出とも通じる体系観が描きだされる。誰にも伝わる言葉を引き出し抽象と具象の整合する概念体系に至って同一基準と稼働の高まる言葉や概念と作用する。



2-2-2 健康・健全の概念

「健全性・健康長寿・博愛」等という観念は人間の身体性の健康のみならず、精神性の健康と共に言葉や概念の導出と活用の適正等という面も加え精神と身体と観念の相関と有機的な姿と形と習慣性をもって人間の変わりづらい健全像が作られる。・身体的健康・精神的健康・言葉や概念の形成と稼働に見る健康、生物物理的な身体上の生命観に対し良好な精神性の存続への意識が出現し言葉や概念の導出と稼働性を合わせ変わりづらい人間像を生み生

態系の芯となって各種の対象性や広狭性に反映させる基本原理と適用の習慣に及ぶ。身体的な健康は精神的な健康と密に関わり言葉や概念の形成や使い方という側面から内面を伺う観点が出現する。生み出す言葉や道具や装置等というあらゆる創造に良好な精神性が挿入され人間や自然と創造の一貫性を遂げ生態の健全と永続の思想と稼働の世界観が形成される。

2-3 不健全性の対処と予防策

「意味不明性の高まる言葉と活用」等という心象や実感が増すようであるとどこか精神性には不良の質感が進む。変わりづらい人間の完結的な適正概念を整え分化性の進行に対し統合性の制御を図り変らぬ生態の適正を求める発想に回る。精神と観念と身体と相関の動態性と対象性における広狭範囲や深淺の観点を持って静的対象の分化と統合を果たし動的側面と静的側面の適正な制御性に向けられる。あまりに普遍的不変の人間像から離れる発想や現象が高まると人間の根源と根幹の崩れた人間と生態に外れ永続軌道の萎んだ世界観に陥る。いつの時代やどこの空間にも変わらぬ基準となる人間像を土台に備え自然観や社会性と生態系の形成軌道を遂げる。出てきたものにばかりケチをつけ自己の側に問題の原因を求めないと自己の見識や見解が向上せず外界への要望過多の歪性を生む。消化不良の概念と活用の粗雑性が増し非人間性と非社会性と非公益性の性格が生む。病んだ精神性の人間に及ばぬ適正概念の導出と確信性が高まり歪性への制御と適正化が促進される。適正と不適正を見分ける基準を導出し確かな人間と生態を映す鏡を描く作為が求められる。

3)思想の特徴

3-1 根源的欲求

一面的な心象や勢いのような者に流され確かな根拠を持たぬまま歪んだ精神性を表す態度が出現する。物質依存の強まる習慣による人間の根源性と根幹性の悪化した姿と解される。

「あっちの方が強そうだから」「あっちの方が勢いがあるから」等という面をもって安直に同調を進め長い方に巻かれ生存を求める性格が強まる。群れで気がでかくなり制御不能な身体性や物質性の活用に陥る精神不良が問題と現れる。人間の健全な活動法則性を問い言葉や概念、領域観や世界観、思想等と導出し変わらぬ良質の形を集約し普遍的不変なる基準を整え時々の環境に対面し良し悪しの評価や未来予測の想像が出現し変わらぬ良質の生態と人間性を作る方法の導出と稼働の習慣を持って実態的な普遍的な観念と実際を果たし健全な心身と観念の相関の実感を遂げる。「確かな人間の習慣や活動法則」を引き出し多くの人々との間で共有される変わりづらい尺度と揃い対象の選定や観測と評価や予測における安定した論理や筋道を導出し確かな方法と実践を遂げる面にいつの時代にも変わりづらい人間の根源的な欲求が出現する。哲学文化の関心や領域観を生む。

3-2 創造力と有効性

小細工的な発想による点数稼ぎの習慣が進むほどに表面性や体裁性へ過剰な意識が起こり内性の負に対し外形を繕い外界を誤魔化し欺きながら自存性を求める性質が固まる。妙に単純化された人間美や人間像を観念と備えそれへの適用を図る基準と稼働の規則性が作られる。慢性化した詐欺や盗み症、一方向の要望の強まる略奪性が出現する。「愛国心を持て」等という表現もあまりに強まると各自の精神や感性の形成過程に歪性が増し反作用や負の影響が起こる。しかし、人間や生態に対する何ら見解が乏しく良いと思う形の認識が弱いのか、或いは外界へ示す事が出来ないとなると良い精神性は映りづらい。良いと思う形を纏め内外へ堂々と明示する態度には肯定的な精神性が出現する。体側の現象で表すか、観念的に表すか、示し方の方法や程度には多様な選択肢が起こる。時代環境と問題意識により何を意図し有効な方法を引き出すか、思想自体の産出性と有効性の観点を浮かべ限られた資源で良い成果を達する面を含み健全な心身と観念の相関と習慣が稼働し最良の生の導出が果たされる。

3-3 思想一般の認識

どのような人間像や生態像の形成と適正を引き出すか、あらゆる創造の根源性と力の源泉性となり各種の創造性に反映される。仮面ライダーやウルトラマン等という漫画による世界観の導出もこうした一面に含まれる。常日頃の学校の先生や家庭における両親の言動や職場における上司の姿等という仕草や振る舞い性質から直接的な善悪を感じ取る因果が出現する。報道機関による対象の選定と評価伝達からも意識的か無意識に良し悪しの基準が稼働し広く人々の善悪や美醜観を形成する影響が作られる。外界からの影響に対し自己の主要な関心と創造を遂げる中で自己なりの適正基準と稼働の習慣と反省の規則性を持って各概念や領域観や体系観、世界観や思想の形成を図り基準尺度の形成と自律や自制の制御を有する人格が作られる。各個別的な人間形成の実績と反省と成果を反映させ学術等という形に精査し「人間学」等という基礎基盤科目を整え空間の根本的な基準の形成と継承を求める精神が出現する。各所から適正像を提起し広く多くの人々の検証性を重ね良き基準の導出と集約に及ばせ空間の芯となる性質を引き出す事も健全な精神と創造と解される。哲学文化という変わりづらい基準像と定まり一代に留まらず幾代にも続く良質の根源を存続させ人間と生態の健全と永続の思想等と産出される。

1.自然環境 2.両親や兄弟友人の性格、3.教育者や学校教育の態度、4.職場の上司や会社の性格、5.報道機関のニュース、6.漫画やドラマや映画や音楽、7.各所から人間性や生態像の見解と提起や訴求、8.自己生産性を通し作られる直接的な因果と基準の導出、9.歴史教育等による偉人や罪人等という対象の選択と伝達、10.哲学理論の主体性原理の導出、11.一般性の基礎学術科目の整備、

3-4 当該思想の特徴と認識

当該文化論は各種各側面からの影響や恩恵を多々享受しながら著者の個別歴史的な縁起物制作販売等という日本の慣習と思索の体験を軸に備え作り出される思想の特徴が出現します。家内安全と商売繁盛と健康長寿といった基本祈願と実現への思慮と探求の存続から生み出される「主体性と生態の原理」等という性格を有します。過去の学術の系譜を丹念に辿り哲学者や思想家の探究や成果の系譜を掴み自己なりの理論を引き出し外界へ提起するスタイルとは異なる様に思われます。独自の性格の増す思想に及び、上記の内「8」の色合いが強いように考えます。一般的な学術科目へ高められるように日々探究と創造活動が投じら

れます。自己の軸足と基軸の習慣による各種基準と原理の導出と稼働を重ねる形にあって精神と身体と観念の有機的相関の人間性と人間像を生む。他の良い点を補完的に組み込み自己の有用な血肉に変換させる入力と変換と産出の規則性において健全な芯を宿す主体性を遂げる。あまりに外界の受動性や一過性の影響の強まらぬ自己形成に適正が出現する。自己の基軸的な習慣と原理の具象的な様式を簡潔に導出する思索が形成される。

3-5 特定観と全体性

「ペーパーレス化」等という概念や現象の観点が出現する。効率の良い作業、資源の有効活用という利点を抱き、それを実際化し促進させる根拠を示し具体的施策を投げ意図や欲求と方法と実現の創造が産まれる。パソコン等というハードの生産性を主要な規則性に有し製品の良い点の認識が整理され内外へ進める供給者が作られる。「紙の使用が減少する」事による負の観点も同時に起こり正負の勘案を持って健全な供給者と生活者の立場を内蔵し真に良質を求める性格が形成される。樹木という資源の放置と自然の生態の好循環を妨げる。又は人間の手足をもって文字を書く事や文字の形成と思考を重ね良く現象を勘案した答えを作る性格を喪失し無思考的な感覚の効用と因果の強まる人間性を生む根本的な性質の変容への危惧が中長期性の観点と現れる。短期的な効用に対し間接的な因果へ視線が広がり大きな対象範囲を浮かべ同時に人間や生態の根源や根幹へ視線が及び中期や長期周期と利益不利益の概念と中身を配し最良的な生の導出を求める精神性が進む。特定事業者の直接的な効用感の認識と共に広く生活者や人間一般や生態系の健全性への問いを併せ特定性と普遍的不変性の観点を含む静的体系観を構成し自己の良き点と不十分な点の認識が整理され自己の現況認識を生みながら外界との対面と訴求を起こし改良点や課題点を掴み健全な内外性と中長期に及ぶ相関と持続の主体性や領域化を実現する。生の導出は負を招く根源的な感性を土台面に存続させ多様な観点と思考の習慣を宿し良好な精神が稼働する創造に及び長期的な健全性を存続する人間性が形成される。長期性の観点に関心を集中し人間や生態の健全と永続の発想を持って利益や不利益の内容を問い作る哲学文化領域の特徴が産まれる。万人性を対象に人間の精神の良質という根源の見解やそれを表す精神と身体と観念の相関と習慣に映る根幹の良質を問い人間と生態の長期性の認識を整え基礎土台性の適正をもって特定観や全体性の構図を引き出し長らく良好な人間と生態の永続と循環の創造が投げられる。

あまりに利己性が強まり特定観の意識が偏り全体性や根源性や根幹性の観点の減退する特定観に陥る傾向則の認識を備え長期的な人間の良質を問い作る習慣や法則が稼働する。

3-6 思想の具象性(動静概念と規則性)

動静の習慣の持続する主体や領域観を備え健全な精神の存続する人間や領域や生態を遂げる静的概念の構成に至る。普遍的不変性の基準と集約し内外へ明示し健全な土台的な基盤をもって各個性や特定観や自他との尊重や協業や共生の相関が産まれる。真理の探究という純粋な創造の習慣が萎むと歪な特定観を招き根源性と根幹性と全体性の悪化した人間性を生む。普遍的な不変と特定性を合わせ持つ人間性において健全な改善意欲の出現する制御が図られる。物質性に妙に依存した生産性に及び力ずくで外界を従わせ自存を強め根源や根幹の不良に陥らぬ健康な精神に不動性を求め人間と自然観と社会性と生態を遂げる長期性に価値の認識が起こる。単純ロボット化した人間に陥るほどに短変数と偏狭性の規格均一と量の増大を求め自存を強め他存を減退させる。「質を問い量の適正をもって良質」という算式と産出に及び健全な人間性が続く。長期的利益概念と構成される。動静概念と規則性という主体性原理の稼働により歪性の増進を予防し健全な心身と観念の相関と習慣の生態軌道が産まれる。

静的 動的	静的	静的概念体系 根源性と根幹性、産出性（特定観と全体性） 及び習慣と規則性、
	動態性 概念形成、 観測評価予測性、	動静 方法の導出と実施と検証、改善と持続性、

3-7 日本文化原論の構成

5 部構成の内、「1 部(一編から三編)」として最終的な集約性の理論が形づくられます。改善と導出を重ね良い形を求め作る過程と結果の習慣をもって表現に示されます。